

[JASO 制定：6 件]

01：規格名称：JASO C 468 乗用車—ディスクブレーキモーターオンキャリパ (MOC) アッセンブリ台上試験方法

- 制定の目的： 近年急速に普及している乗用車のディスクブレーキのモーターオンキャリパアッセンブリに対して性能・機能を評価する規格は存在していなかったため、関係者間での開発・評価の効率及び品質の向上を目的に JASO を制定した。
- 適用範囲： 本 JASO は、乗用車の正常に作動するディスクブレーキのモーターオンキャリパアッセンブリの電動駐車ブレーキ台上試験方法について規定する。ただし、ダイナモメータを用いて行う摩擦材特性試験は含まない。
- 規定項目： 1 適用範囲, 2 引用規格, 3 用語及び定義, 4 共通事項, 5 試験方法, 6 記録の様式
附属書 A (規定) 各試験記録表一覧, 附属書 B (参考) 各試験項目一覧, 解説
- 期待効果： JASO C468 を制定することで、試験条件の統一を図り、乗用車の MOC アッセンブリの開発・評価の効率及び品質の向上が期待できる。

02：規格名称：JASO D 015-6 自動車—クロックエクステンションペリフェラルインターフェース (CXPI)

第 6 部：コントローラ仕様&コンフォーマンステスト仕様

- 制定の目的： 2015 年に制定した HMI (Human Machine Interface) に関する多重通信規格「JASO D 015」に必要な機能、通信データ送信タイミング等のコントローラとして必要な機能を統一するため、D015 の第 6 部として JASO を制定した。
- 適用範囲： 主に自動車電子システムの HMI (Human Machine Interface) 領域に適用する CXPI コントローラがもつべき機能について規定する。
- 規定項目： 1. 適用範囲 2. 引用規格 3. 用語及び定義 4. 記号及び略語 5. CXPI コントローラ仕様 6. CXPI コントローラコンフォーマンステスト仕様 解説
- 期待効果： コントローラの仕様を統一化することで、ソフトの種類が減少、ソフト開発工数の低減が図られる。また、トランシーバの機能の一部をコントローラへ移動することにより、コストダウンが図れ、CXPI 通信の更なる拡大が期待できる。

03：規格名称：JASO D 015-7 自動車—クロックエクステンションペリフェラルインターフェース (CXPI)

第 7 部：サブセット プロトコル仕様 & プロトコルコンフォーマンステスト仕様

- 制定の目的： 「JASO D 015」で規定される CXPI 通信を使用する場合の、マイコンを使用しない特定用途向け専用 IC を適用する場合について、自動車メーカ共通となるプロトコル仕様を統一するため、D015 の第 7 部として JASO を制定した。
- 適用範囲： 主に自動車電子システムの HMI (Human Machine Interface) 領域に適用する CXPI 通信プロトコルについて規定された JASO D015-3 に対し、ダイアグクラス I のスレーブノードにおいて、MCU を使用しない特定用途向け専用 IC による CXPI 通信を実現するためのサブセット規格について規定する。
- 規定項目： 1. 適用範囲 2. 引用規格 3. 用語及び定義 4. 記号及び略語 5. サブセットプロトコル仕様 6. 規格混在時の規定 7. サブセットプロトコルコンフォーマンステスト仕様 8. データリンク層 試験仕様、物理層 試験仕様
- 期待効果： ダイアグクラス I のスレーブノードにマイコンを使用しない特定用途向け専用 IC を適用した場合のプロトコル仕様を統一化することで、自動車メーカによらず共通に使えることにより、またマイコンを使用しない特定用途向け専用 IC の CXPI 通信制御回路を最小化することができコストダウンが図れる。さらに Low performance MCU (レガシー)にも有用である。これらにより CXPI 通信の更なる拡大が期待できる。

04：規格名称：JASO M 364 自動車用ガソリン機関潤滑油

- 制定の目的： 日本の自動車メーカはグローバルな自動車用ガソリン機関潤滑油の規格として ILSAC 規格 (及び API 規格) を採用しており、現在 ILSAC GF-6 の規格開発が進められている (2019 年導入予定)。日本自動車工業会より、自動車用ガソリンエンジン油規格の ILSAC GF-6 の次の規格 (GF-7) への織り込みも考慮し、0W-16 より低粘度の自動車用ガソリン機関潤滑油規格の制定及び燃費試験法開発の要望があり、規格制定の可能性を検討した結果、日本の自動車メーカのエンジンを使用した燃費試験方法として JASO を制定した。
- 適用範囲： 本 JASO は、SAE 0W-8、0W-12 を対象とした低粘度自動車用ガソリン機関潤滑油の品質について規定する。
- 規定項目： 1. 適用範囲 2. 引用規格 3. 用語及び定義 4. 品質 5. 試験方法 解説
- 期待効果： SAE 0W-8、0W-12 を対象とした世界初のガソリン機関潤滑油の公的規格を定めることで、低粘度ガソリン機関潤滑油の普及を促進し、CO2 排出削減、燃料消費量低減に大きく寄与する。さらに、本規格に適用のファイアリング燃費試験は、将来的に ILSAC 等のグローバル潤滑油規格への織り込みも検討しており、グローバルでの CO2 削減だけでなく、JASO 規格のプレゼンス向上も期待出来る。

05：規格名称：JASO M 365 自動車用ガソリン機関潤滑油—モータリング燃費試験方法

- 制定の目的： 自動車の燃費向上、CO2 排出削減のためのガソリン機関潤滑油の低粘度化は、有効な手段として実施されてきたが、低粘度なガソリン機関潤滑油の省燃費性を評価出来る公的な試験法が存在しなかった。そのため、日本自動車工業会に所属する多くの企業の要望に基づき、新規省燃費性試験法として JASO を制定した。
- 適用範囲： 自動車用ガソリン機関潤滑油の省燃費性を評価する試験方法について規定する。
- 規定項目：

2018 年度 JASO・JASO テクニカルペーパー (TP)・JIS の原案概要

1. 適用範囲 2. 引用規格 3. 用語及び定義 4. 試験装置 5. フラッシング油及び基準油/標準油 6. 試験方法 7. 測定項目 8. トルク低減率の算出 9. 燃費向上率の算出 10. 報告 解説

期待効果：

SAE 0W-8 も評価可能な世界初のガソリン機関潤滑油の公的燃費試験方法を定めることで、CO₂ 排出削減、燃料消費量低減に大きく寄与する。さらに、将来的に ILSAC 等のグローバル潤滑油規格への織り込みも検討しており、グローバルでの CO₂ 削減だけでなく、JASO 規格のプレゼンス向上も期待出来る。

06：規格名称：JASO M 366 自動車用ガソリン機関潤滑油—ファイアリング燃費試験方法

制定の目的：

自動車の燃費向上、CO₂ 排出削減のためのガソリン機関潤滑油の低粘度化は、有効な手段として実施されてきたが、低粘度なガソリン機関潤滑油の省燃費性を評価出来る公的な試験法が存在しなかった。そのため、日本自動車工業会に所属する多くの企業の要望に基づき、新規省燃費性試験法として JASO を制定した。

適用範囲：

0W-8、0W-12 を対象としたガソリン機関潤滑油の省燃費性を評価するファイアリング燃費試験方法について規定する。

規定項目：

1. 適用範囲 2. 引用規格 3. 用語および定義 4. 試験装置 5. 燃料 6. すり合せ油、フラッシング油、及び基準油 7. 試験方法 8. 報告 9. 参考文献 附属書 解説

期待効果：

SAE 0W-8 も評価可能な世界初のガソリン機関潤滑油の公的燃費試験方法を定めることで、CO₂ 排出削減、燃料消費量低減に大きく寄与する。さらに、将来的に ILSAC 等のグローバル潤滑油規格への織り込みも検討しており、グローバルでの CO₂ 削減だけでなく、JASO 規格のプレゼンス向上も期待出来る。

[JASO 改正：6 件]

07：規格名称：JASO C 406 乗用車—ブレーキ装置—ダイナモメータ試験方法

改正の目的：

本 JASO は、乗用車の常用ブレーキの性能を把握する「JASO C402」をダイナモ試験機でシミュレートする為に制定され、制定以来、JASO C402 と併せて広く活用されている。今回、2016 年度に改正された JASO C402 と整合を図るため、本 JASO を改正した。

※JASO C402：2016「乗用車常用ブレーキ実車試験方法」

適用範囲：

本 JASO は、乗用車の正常に作用する常用ブレーキのダイナモメータ性能試験方法について規定する。ただし、二輪自動車については適用しない。

規定項目：

1. 適用範囲 2. 引用規格 3. 用語及び定義 4. 試験条件 5. 試験方法 6. 記録 解説

期待効果：

試験条件について、改正された JASO C402 に準拠した改正を行うことで、JASO C402 との整合がとれ、規格が適正化される。

08：規格名称：JASO C 448 乗用車—ディスクブレーキキャリパアッセンブリ台上試験方法

改正の目的：

本 JASO は、乗用車のディスクブレーキキャリパの諸特性を包括した試験法となっており、制定以来広く活用され、試験工数の低減、ディスクブレーキキャリパの品質向上に貢献している。今回、引用規格との整合、試験条件の最新化を図るため、本 JASO を改正した。

適用範囲：

本 JASO は、乗用車の正常に作動するディスクブレーキのキャリパアッセンブリの常用ブレーキ台上試験方法について規定する。ただし、ダイナモメータを用いて行う摩擦特性試験は含まない。

規定項目：

1. 適用範囲 2. 引用規格 3. 用語及び定義 4. 共通事項 5. 試験方法 6. 記録の様式 附属書 A (規定) 各試験記録表一覧 附属書 B (参考) 各試験項目一覧 解説

期待効果：

試験条件を JASO C419 に準拠した改正を行うことで、引用規格との不一致を解消し、規格の適正化を図ることが出来る。

09：規格名称：JASO D 605 自動車用コネクタ

改正の目的：

2017 年度において、日本のカーメーカ、コネクタメーカで検討、合意した間口を JASO 化する前段階として、JASO テクニカルペーパー「TP 18001」を制定した。

TP18001 の内容と電装品メーカの要望を織り込むため、本 JASO を改正した。

※ TP18001：自動車部品—自動車用コネクタ—標準間口

適用範囲：

本 JASO は、自動車のワイヤハーネス用単極及び多極コネクタの一般要求性能及び試験方法について規定する。

規定項目：

1. 適用範囲 2. 引用規格 3. 用語及び定義 4. 種類 5. 性能 6. 形状・寸法 解説

期待効果：

コネクタの開発期間短縮と車両 OEM 間の部品共用化/種類統合が期待できる。

10：規格名称：JASO D 612-4 自動車部品—ヒューズ—第 4 部：プラグイン形 (A 形) 及びねじ締め形 (B 形) 大電流ヒューズ

改正の目的：

本 JASO は、ISO 8820-4 のベースとなる規格である。

2010 年に改正 (2014 年に小改正) 後に新規に市場導入されたヒューズを追加することで最新の内容にするとともに、ISO8820-4 の改正提案の基礎とするため、本 JASO を改正した。

※ISO 8820-4：2016「Fuse-links - Part4:Fuse-links with female contacts (type A) and bolt-in contacts (type B) and their test fixtures」

2018 年度 JASO・JASO テクニカルペーパー (TP)・JIS の原案概要

- 適用範囲： 本 JASO は、定格電圧 32 V 又は 58 V、遮断容量 1 000 A かつ定格電流 140 A 以下の自動車用プラグイン形及びねじ締め形低電圧ヒューズについて規定する。
- 規定項目： 1. 適用範囲 2. 引用規格 3. 用語及び定義 4. 種類及び記号 5. 定格電流及び識別
6. 要求事項 7. 試験方法 附属書 解説
- 期待効果： JASO D612-4 を ISO に先駆け改正する事により、日本がプロジェクトリーダーを務めている ISO8820-4 の改正作業をリードするとともに、国際規格開発をスムーズに推進することが可能となる。

11：規格名称：JASO F 116 自動車部品—ヘキサロピュラ付きねじ部品

- 改正の目的： JASO F116 は、ISO および JIS には同様の規格はなく JASO 独自の規格であり、広く自動車業界で使用されている。前回の改正後、その間の市場ニーズの変化により種類や使用状況に変化があり、またこの間に関連規格の変更も行われており整合化が必要と考えられるため、現状の使用実態に合わせることを目的に、本 JASO を改正した。
- 適用範囲： この規格は、自動車に使用するヘキサロピュラ付きのボルト、ナット、小ねじ及びタッピンねじについて規定する。
- 規定項目： 1. 適用範囲 2. 引用規格 3. 用語及び定義 4. 種類 5. 呼び径とドライブサイズとの組合せ 6. 形状・寸法 7. 機械的性質 8. ねじの種類及び許容限界寸法 9. 材料及び熱処理 10. 表面処理 11. 表面状態 12. 表面性状 13. 検査 14. 製品の呼び方 15. 強度区分の表示 附属書 解説
- 期待効果： 最新の使用実態にあわせ、関連規格との整合を図った実用的な規格とすることにより、製品品質の安定化、部品共通化の促進、規格利用の価値の一層の向上が期待できる。

12：規格名称：JASO T 003 二輪自動車—乗車姿勢

- 改正の目的： 国内エンデューロ車市場において、本 JASO T003 にある規定値に従った国内向け仕様車と、L-WVTA 法規に合致した輸入車というダブルスタンダードが常態化している事態を改善し、世界基準調和の流れに合わせることを目的に、本 JASO を改正した。
- 適用範囲： この規格は、二輪自動車の乗車姿勢について規定する。ただし、道路交通法に定められた道路(公道)を走行しない車両は除く。
- 規定項目： 1. 適用範囲 2. 引用規格 3. 用語及び定義 4. 乗車姿勢を定める車体の 3 要素 5. 3 要素の位置 解説
- 期待効果： エンデューロ車において統一規格が実現すると共に、海外他社と同じ条件(法規・規格)での自由競争を実現し、健全な市場を形成することができる。また、仕様統合によって開発資源の効率的な活用が可能となり、日本での販売価格上昇を抑え、ユーザの負担を軽減できる。

[JASO テクニカルペーパー制定：2 件]

13：TP 名称：JASO TP 19001 CISPR25 2016 放射・伝導妨害波測定方法 解説及び補足

- 制定の目的： ラジオや TV などの車載受信機保護のためのエミッション試験規格として世界的に広く使われている「CISPR25」を正しく実施し、質の高い試験品質が得られるよう技術的解説を目的に TP を制定した。
- 期待効果： これまで使用者にとっては、国際規格が改訂された際に、なぜそれが改訂されたか背景、意図を知ることが困難であった。そのために、改正の変更点を明確化するとともに、その決定に至る国際会議で行われた審議状況を掲載、さらに国際規格を EMC エキスパートが解釈し、既に実施されている状況があればそれも記載した。この TP により、試験の目的を正しく理解していただき、実際の試験現場で、供試品の大きさや周辺機器の構成上、どうしても規格から逸脱せざるを得ない状況になった場合にも、規格の本質に沿った試験が実施できる。

14：TP 名称：JASO TP 19002 自動車—雷撃に対する車両試験のガイドライン

- 制定の目的： 今後新たな構造、機能の車両を開発する際、雷に対する影響調査を適切に行うために、車両直撃雷の試験の共通化を図ることを目的に TP を制定した。
- 期待効果： 新たな構造、機能の車両を開発する際、雷に対する影響調査を適切に行うことができる。

[JIS 制定：3 件]

15：規格名称：直噴ガソリン機関—高圧燃料配管 第 1 部：結合端部

- 制定の目的： ガソリン機関用燃料噴射装置における直噴化の拡大に対応し、この分野にて技術的にリードしている日本が実質的に原案作成を行い、2014年に配管接続部相手側形状に関する国際規格「ISO 18418-1」および管アセンブリ仕様に関する規格「ISO 18418-2」が発行された。今回、これらの ISO 規格にて制定された内容を JIS として新たに制定した。
※ISO 18418-1:2016「Gasoline engines -- Medium pressure liquid fuel supply connections -- Part 1: 60° female cone connectors」

2018 年度 JASO・JASO テクニカルペーパー (TP)・JIS の原案概要

※ISO 18418-2:2014「Gasoline engines -- Medium pressure liquid fuel supply connections -- Part 2: Pipe assemblies」

適用範囲:

直噴ガソリン機関の燃料噴射装置に用いられている、燃料ポンプやレール等の構成部品における高圧燃料配管との結合端部の形状及び寸法に関する要求事項を規定する。

規定項目:

1. 適用範囲 2. 引用規格 3. 用語及び定義 4. 要求事項 5. 使用圧力 6. 呼び方 解説

期待効果:

対応国際規格ISO 18418-1と同時に発行されたISO 18418-2を基にしてJISの制定を合わせて行うことによって、直噴ガソリン機関用の燃料噴射装置メーカー各社で製造されている直噴用燃料噴射装置の燃料配管及び接続形状に関する仕様が統一でき、生産者と使用者間との間の不必要な混乱を防止できるとともに、合理的、効率的な開発及び生産に寄与できる。

16: 規格名称: 直噴ガソリン機関—高圧燃料配管 第2部: 管アセンブリ

制定の目的:

ガソリン機関における直噴化の拡大に対応し、直噴用の燃料噴射システムの採用も増加している。使用される部品はディーゼル機関用燃料噴射装置の部品と類似している場合が多いが、使用する燃料圧力が異なるため、独自の形状仕様のものが多数登場している。この状況に鑑み、直噴ガソリン機関用燃料噴射装置に関する規格化の機運が高まり、ISOにて規格制定の取り組みが開始された。その結果高圧燃料配管アセンブリに関する規格 ISO 18418-2がISO 18418-1とともに2014年に発行された。

日本においても、直噴ガソリン機関の導入が進んでいるために、JIS化の要望も多く、今回、ISO 18418-2を基として、JISを新たに制定した。

適用範囲:

直噴ガソリン機関の燃料噴射装置に用いられている、継ぎ目なしステンレス鋼管製の高圧燃料配管アセンブリ及び組み配管セットに対する寸法並びに一般要求事項を規定する。

規定項目:

1. 適用範囲 2. 引用規格 3. 寸法及び許容差 4. 清浄度 5. 最小曲げ半径 6. 配管結合端部 7. 使用圧力 8. 曲げ部の扁平率 9. 締付けトルク及びシール性 10. 呼び方
11. こん包及び識別 解説

期待効果:

対応国際規格ISO 18418-2と同時に発行されたISO 18418-1を基にしてJISの制定を合わせて行うことによって、直噴ガソリン機関用の燃料噴射装置メーカー各社で製造されている直噴用燃料噴射装置の燃料配管及び接続形状に関する仕様が統一でき、生産者と使用者間との間の不必要な混乱を防止できるとともに、合理的、効率的な開発及び生産に寄与できる。

17: 規格名称: 救急自動通報システム(D-Call Net)の傷害リスク曲線—作成方法及び評価方法手順

制定の目的:

日本では世界に先駆け、2016年11月から、交通事故発生時に自動車から自動通報された車両情報から傷害リスク曲線を用いて乗員傷害程度を予測し、事故現場にドクターヘリを送る、日本版AACNである救急自動通報システム(D-Call Net)が開始された。この救急自動通報システム普及にあたっては、アルゴリズムの適用範囲、用語の定義、統計手法と対象とした交通事故データ、リスクファクタ等について標準化を行う必要があることから、新たにJISとして制定した。本JIS制定後、速やかに国際規格化としてIS化提案を行う。

適用範囲:

先進事故自動通報システムから得られる交通事故データなどにに基づき、衝突した際の自動車乗員、二輪車(モペット・モーターサイクル)乗員、歩行者、自転車乗員が負う傷害のレベルを予測する救急自動通報システム(D-Call Net)の傷害リスク曲線の作成方法について規定する。

規定項目:

1. 適用範囲 2. 引用規格 3. 用語及び定義 4. 傷害リスク曲線 解説

期待効果:

救急自動通報システム(D-Call Net)に使われる傷害リスク曲線について国内規格を整備することにより、自動車メーカー各社独自の傷害リスク曲線開発が不要となることや車両データを標準化することによる通信プロトコル・車載通信機等の仕様統一を可能とすることによるシステムの早期普及見込まれると同時に、コールセンターや消防・病院にとっては、予測傷害レベルの一本化や救命救急の現場での混乱排除によるシステムの安全担保が期待される。

[JIS 改正: 3 件]

18: 規格名称: JIS D 1606 自動車部品—スパークプラグ—適合性試験方法

改正の目的:

エンジンの電子制御化、特に高圧縮・高過給化に伴う要求電圧の上昇に対応するため、要求電圧試験を追加するとともに、引用規格及び関連規格を最新のものにするため、本JISを改正した。

適用範囲:

本JISは、自動車用スパークプラグの火花点火機関に対する適合性を調べる実用的な試験方法について規定する。

規定項目:

1. 適用範囲 2. 引用規格 3. 用語及び定義 4. 試験方法 5. 試験結果の記録 解説

期待効果：

既に規定されている、ブリーグニション試験・低負荷適合性試験・くすぶり汚損試験・カーボンの自己清浄試験に、耐電圧性能試験を加えることで、スパークプラグに求められる性能全般を網羅することができる。また、他の試験方法と同様に基本的な試験方法を記載することで試験方法の標準化が期待できる。

19：規格名称：JIS D 5901 自動車—温水式暖房装置性能試験方法

改正の目的：

本 JIS には、ヒータコアの圧力試験や繰り返し加圧試験が規定されているが、暖房器試験方法としての規格なのか、ヒータコア単体としての規格なのかのわかりにくかったことから、自動車用温水式暖房装置の性能試験方法に特化して整理することを目的に本 JIS を改正した。

適用範囲：

自動車用エンジンの冷却液を熱源とする車室用暖房装置の試験方法について規定する。

規定項目：

1. 適用範囲 2. 引用規格 3. 用語及び定義 4. 試験項目 5. 性能試験 6. 騒音試験 7. 試験成績の記録 解説

期待効果：

試験条件の明確化、実態に見合った試験装置例への図象変更などにより、実際の試験が進めやすくなる。

20：規格名称：JIS D 8301 自動車及びタイヤの車外騒音測定のための試験用路面

改正の目的：

本 JIS は、「ISO 10844」の IDT (一致) 規格である。この ISO が 2014 年に改正されたため、整合化の観点から本 JIS を改正した。

※ISO 10844:2014「Acoustics - Specification of test tracks for measuring noise emitted by road vehicles and their tyres」

適用範囲：

車両及びタイヤ・路面の騒音測定を目的とする試験用路面の特性について規定する。

規定項目：

1. 適用範囲 2. 引用規格 3. 用語及び定義 4. 試験用路面の要件 5. 測定方法とデータ処理 6. 適合性報告書 7. 各国の現状 8. 1994 年版路面からの改訂概要 附属書 解説

期待効果：

測定結果の再現性が高まり、効率化につながることが期待できる。